

2012.12.15



注目の首席指揮者と手兵オーケストラを聴く



❖❖❖ プログラム ❖❖❖

オーケストラは指揮者によって音が変わると言われます。専任でそのオーケストラと多くの時間を割き、独自のカラーを創り上げて行く役割を果たすのが首席指揮者(常任指揮者)ですが、この首席指揮者とオーケストラの関係は、全てがうまく行くというわけではありません。今日は充実した演奏、また今後に期待を抱かせる演奏を聴かせてくれている3組の首席指揮者と手兵オーケストラの演奏をお聴きいただくことにしました。

1959年ベルリン生まれのクリスティアン・ティーレマンは今年2012年の9月から名門ドレスデン国立歌劇場管弦楽団の首席指揮者に就任、この10月には来日して素晴らしい演奏を聴かせてくれました。今日は就任約1年前の本拠地での演奏をお聴きください。シャルル・デュトアは1936年スイス生まれ。これまでモントリオール響、フランス国立管、N響等、オーケストラ・ビルダーとしての手腕を遺憾なく発揮してきました。2008年にはフィラデルフィア管弦楽団の首席指揮者に就任、残念ながら2012年のシーズンでその地位を退きますが、今日は幻想交響曲でこのコンビの成果が聴き取れます。1975年イギリス生まれのダニエル・ハーディングは2007年からスウェーデン放送交響楽団の首席指揮者に就任。その相性の良さを感じさせる素晴らしい演奏を聴かせてくれています。ドヴォルザークのチェロ協奏曲は、有名な口短調協奏曲より30年も前、24才の頃の作品で、元はチェロとピアノのために書かれました。後に協奏曲として編曲された版でお聴きいただきますが、青年期の作品ながら、若々しさと美しい曲想は魅力に溢れています。

今年も一年間ありがとうございました。来年も皆様の期待に添えるようなプログラムを用意して行きたいと思っています。よろしく申し上げます。

ヨハネス・ブラームス (1833~1897): 悲劇的序曲op.81

クリスティアン・ティーレマン指揮ドレスデン国立管弦楽団
(2011.6.11 ドレスデン、ゼンパーオーパーでのLive)

ヘクトル・ベルリオーズ (1803~1869): 幻想交響曲op.14~抜粋

シャルル・デュトア指揮フィラデルフィア管弦楽団
(2011.9.7 ベルリン、フィルハーモニーホールでのLive)

*** 休憩 ***

アントニン・ドヴォルザーク (1841~1904): チェロ協奏曲イ長調(ギュンター・ラファエル編曲)~抜粋

ステイーヴン・イツサーリス(チェロ)
ダニエル・ハーディング指揮スウェーデン放送交響楽団

ロベルト・シューマン (1810~1856): 交響曲第2番ハ長調op.61~第1楽章、第2楽章から、第3楽章から、第4楽章

ダニエル・ハーディング指揮スウェーデン放送交響楽団
(2012.10.5 ストックホルム、ベルワルドホールでのLive)